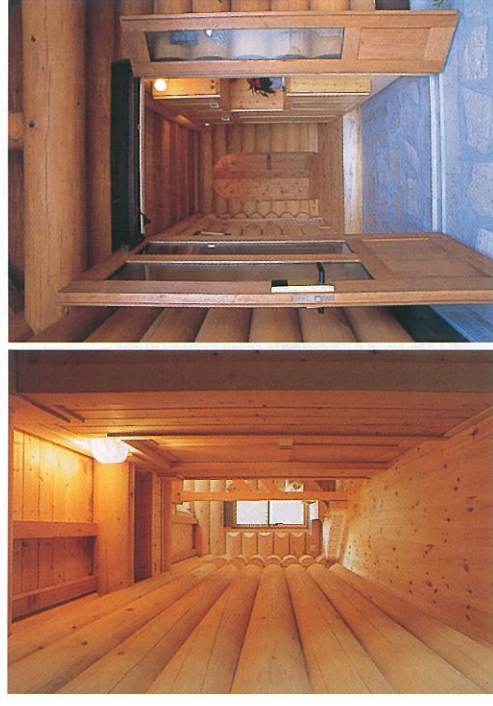


高耐久のログハウス

イエローシーダーの丸ログを2階まで積んだ 300年住み続けられる家

富山県黒部市／稲留裕一郎

2階まで丸ログを積んだイエローシーダーのログハウス。こちら側は道路に面しているの
で、開口は必要最低限



建物がなく開けている西側の外観。大屋根にはドーマーがふたつ。キッチンと洗面所が納まっている。煙突は、水晶石で化粧している

右／煙突と同じ水晶石を敷いた玄関。玄関の奥に昇える扉は、個室の扉。斜めにドアを取り付けることで、部屋が丸見えにならず、かつデザイン的にもユニークだ。左／吹き抜けがないので、普通の住宅のように各部屋が配置されている1階。そのためログ壁が続く長い廊下ができ、イエローシーダーの香りを堪能できる場所でもある

イエローシーダーは、米ヒバともいわれるヒノキ科の針葉樹。ボートの船体などに使われるほど耐久性が高く、独特の香りと美しい木肌をもつ。しかしログの材としては、入手しづらく、ほかの材よりも高価なため、家の土台や柱など構造上重要な個所だけに使うケースが多い。このイエローシーダーの丸ログを2階まで積んだ夢のようなオール・イエローシーダーのログハウスを建てたのが、稲留さんだ。「テレビドラマ『北の国から』の影響もあり、ログハウスに住みたいとずっと憧れていました。4年前、単身赴任先の福島で見つけたメーカーを訪ねてみたんです」と主人の裕一さん。「ログハウスは好きだけれど詳しくない私に、ログの長所だけではなく短所もきちんと丁寧に説明してくれたことで、信頼ができると思いました」と、すぐにメーカーを決めた。しかし、稲留さんの家づくりは急いでいなかったため、工期は未定。ゆっくりと計画していた2年前、メーカーから「イエローシーダーがそろうので、どうですか？」と連絡があった。「イエローシーダーといわれてもよくわからなかったのですが、木を見せてもらったら、年輪が見えないほど詰まっっていて、素人が見ても、すばらしい木だと思いました。あとはもうおまかせ。それで、この家が実現したのです。300

リビングにはメーカー手づくりのダイニング・テーブルとベンチ、薪ストーブ（ヨツエがP400）もリビングのある2階に設置。始めれば火のある暮らしを楽しんでいる



左/二重にしている屋根はちょうど躯体の上の部分だけにして、費用も抑えている。右/北側ドーマーは、洗面所とトイレ。少しでも壁が高く、窓がある、明るさと広さが全然違う



左/なんとお風呂の浴槽も壁も水に強いイエローシーダー。床の石は少し緑がかった色が美しい十和田石。右/お風呂は、メンテナンスのことを考えて、別棟になっている。窓からの景色が望めるように、坪庭もつくっている



キッチンの軒側を広く使えるように、急ぎよドーマーをつけることに。細長い窓を取り付け、明るさも確保。喫茶店のような木製カウンターが家の雰囲気にピッタリ



オーナーさんの声

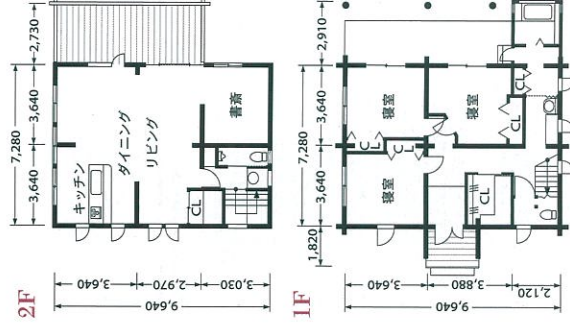
頑丈で住みやすい家にこだわり抜いて、理想の家をつくってもらえました

「ここはこうしよう」「こっちのほうがいいです」と、本当にここまでしてくれるの？というくらい、施工から素材選びまで家づくりにこだわってくれました。また、大工さんたちの丁寧な仕事にも感動しました。そんななか、デッキの手すりやアーチカットのデザインや、壁の色などは、私たちが考えてみました。とてもいい家できてうれしかったです。

1階の主寝室とふたりの息子さんの部屋は、収納付きのシンブルなつくり



- Loghouse Data**
- 使用目的=住宅
 - 所在地=富山県黒部市
 - 敷地面積=526.9㎡
 - 延べ床面積=146.6㎡ [1階=76.4㎡、2階=70.2㎡/デッキ=18.1㎡]
 - 着工日=2006年11月
 - 完成日=2007年10月
 - 構造=丸太組み構法(ラウンドノッチ)
 - 使用ログ材=イエローシーダー(φ30.0㎝)



- 基礎=ベタ基礎
- 外部仕上=カラーステンレス板金/建具=木製ドア、高断熱樹脂製ペアガラス・サッシ/一部外壁材=レッドウッド板張り/塗料=ノンロット(2~3回塗り)
- 内部仕上=天井材=板張り仕上げ/一部内壁材=パイン板張り/床材=パイン/塗料=蜜ロウ(床のみ)
- 設計・施工=株 芳賀沼製作

年生の木なので、300年の耐久性があるそうですよ」稲留さん。「ログ材に使えるようなイエローシーダーはいま入手困難なので、稲留さんはとてもラッキーでした」(メーカー:芳賀沼さん)。

「こだわりは、単にログ材だけではない。稲留邸は、2階にLDKを配置。吹き抜けはなく、1階は3つの個室に間仕切りされている。「住宅地だけれど、西側の見晴らしがとてもよい立地。なので2階にリビングというプランを提案しました。施工で一番気を使ったのが、いかに快適なリビングをつくるかということです」と芳賀沼さん。たとえば、夏暑い富山の気候に合わせて、屋根は二重構造になっ

ている外断熱屋根。また海のそばに建つため、塩害防止に屋根材は錆びないステンレスだ。遠くまで見晴らせる2階デッキは、奥行き2.7mと広く、さらにデッキには屋根が掛かっている。雨や紫外線からログ壁、デッキを守っている。

「2階にリビングという案に、最初は、え?と思いました。天井が高く開放的でとても気に入っています」と、奥様の友子さん。「バリアフリーにして楽するよりも、階段があることで体を動かすので、健康にいかもかもしれません」と裕一さん。自分たちの次には息子さん夫婦、そしてその子供たちがずっと住み続けるに違いない、頑丈で頼りになる稲留邸だった。

右/リビングの一角にあるアーチカットの間仕切りされている空間は、ちょっとしたホビールームとして使用。下/約18㎡もある2階のペランダは見晴らし台のように速くまで景色が望める気持ちがいい。デッキを覆う軒の出は3mもあり、「ここは海からの風が強い場所なので、軒の補強に鉄骨を入れています」とメーカー。鉄骨は板材で覆われて違和感なく施工されている



大迫力のログ壁、アーチカット、開放的な様子に、吹き抜けのある空間のように見える2階のリビング。リビングも丸太の壁にしたいと、ログを2階まで積んだという。妻側は開口をいっぱい設け、風通しがよく、太陽の光あふれる空間となっている